

A:1-0-0-2

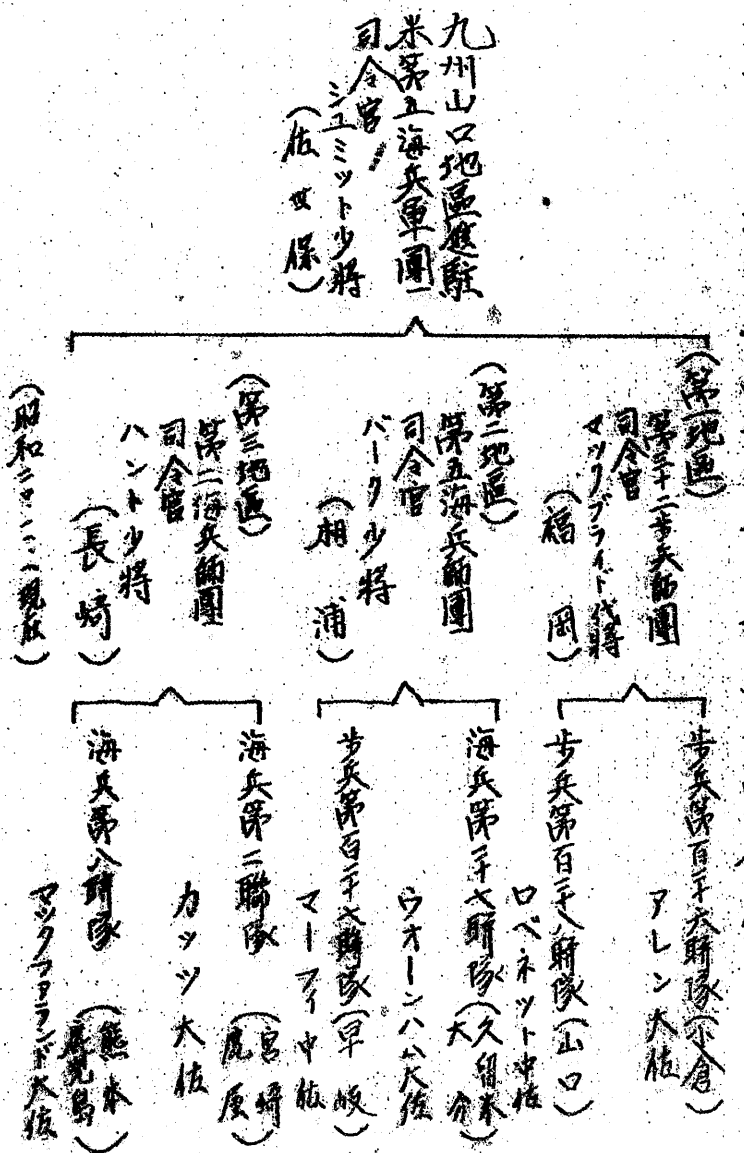
終身勤務第一

聯合進駐軍連絡委員會報第百五號 十一月八日

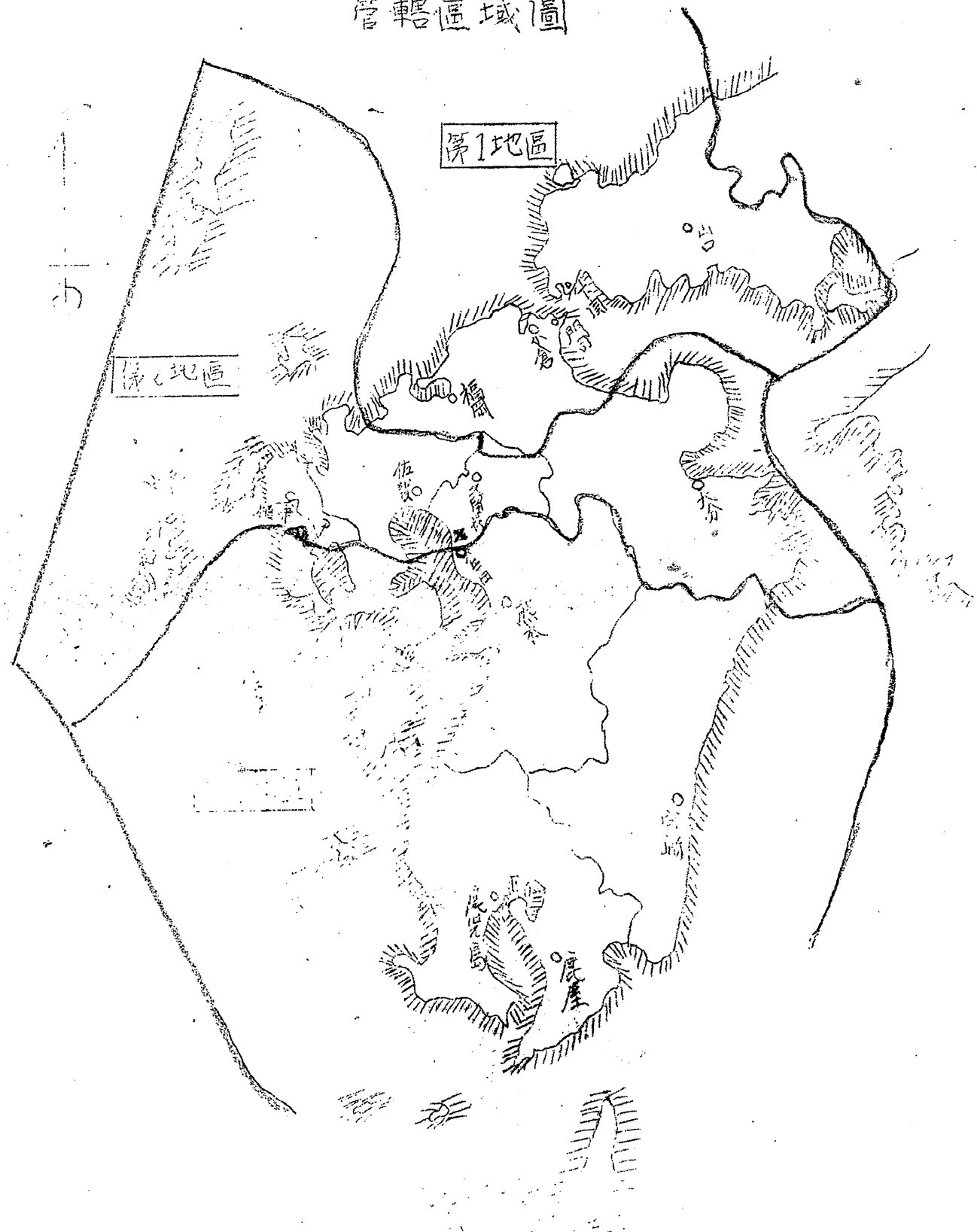
委員長 殿 務力部長 殿 務力部長 殿 務力部長 殿 務力部長 殿

九州山口地區進駐米第五海兵軍團配屬表別紙第一
右海兵軍團管轄地域別紙第二、如シ

九州山口地區進駐米第五海兵軍團配屬表



九州山口地區進駐米第五海兵軍團
管轄區域圖



A 10.0.2

支那總務部一課

聯合進駐軍運送委員會報第千五號 十月十日
委員 謝君有恩 委員長 委員長

一、香椎松原倉庫より聯合軍海軍倉庫(輸送隊及彈草隊其他
特殊作業隊ヲ除ク)ハ十月二日 至〇四〇〇間同倉庫引込線臨時
列車より佐世保ニ向ヒ移駐セリ其兵力五〇〇ト推定(箱崎署情報)
右八九月下旬進駐セシ海兵共千八人聯隊兵力ガ第千一師團ノ進駐ニ
伴ヒ進駐セシハシラレト判断ス
二、下進駐兵力ノ隨見表別紙ノ如シ
三、決定 建物接收ノ如シ

建物名稱	場所	接收日	接收部隊	使用部隊
渡辺ノ所有四ヶ室 了バート	市内博多 在家町	一、一	三三師	
小島キミ所有 寄附前倉	香椎町香椎	一、二		
昭和鐵工所内白棟	箱崎	二、四	五〇二隊	軍團宿舎



(取扱、特三注意セラレ度) 平五号別紙

二〇二一〇現在

福岡縣下聯合進駐軍兵力一覽見表 總計一六七〇七

福岡地區 計一〇、一九二

進駐日	宿 炊 官 場 所	部隊 (指揮官)	人員	摘要
海軍隊 自九、三〇 三〇、一 三工師 自〇、二〇	西戸崎海軍航空隊及同附近	第五三〇一工作隊 第一六八八工作隊 第六地區部隊 第五野戰隊指揮班 第三工師團附航空整正備隊 第三三三彈藥隊	三四四	
	雁ノ巣	海兵第六二八聯隊 第九步兵大隊 第七三三步兵隊 第七三五化生部隊 第七三六二設營隊 第三三二設營隊	二六〇	海兵第六二八聯隊 八隊改佐吉伴三 移動于周知セル 如シ
	香椎松原倉庫	第一〇二七步兵聯隊 第一四〇九工作隊 第一九〇二工作隊	三〇〇	
	香椎 九ノ飛	第一二四五工作隊	二七〇	
	吉岡年博學校	ロビンソン司令部	二八八	
	多々良村土井倉庫	第一二四五工作隊	二七〇	
	箱崎福壽鐵工所	第一二四五工作隊	二八八	
	一方亭武徳殿	ロビンソン司令部	二八〇	
	憲兵隊司令部	第三師團司令部 マックスラード代將 第三九軍政部 パーラス少佐	二〇〇 (推定)	
	千代田ビル	第三九軍政部	一〇	
	竹門易保險司	第一二三野戰病院 第五衛兵隊 第三三師團通信隊	八〇〇 七〇〇	外一五〇看護 場
	西軍司令部及同部裏 第一高女	第五野戰隊	二〇〇	
	雜餉限九部 春日原造兵廠	第三三七步兵隊	八〇〇	
	北紫郡大野村白木原 福岡精工所	第一九〇九步兵隊	一五〇	
	大野村中央兵器	第一九〇九步兵隊	一五〇	

進駐日	宿營場所	部隊(指揮官)	人員	備要
	東洋空軍制衣作所	第一一二部隊	二〇〇	
	山本ホテル	第九四司令部		
	島津制衣作所	第四檢閲所		
	日本勤産	港灣司令部		
	門司地區	計一〇五〇		
	門司俱樂部	海兵隊	三〇〇	近ノ第三十師団上長石上ノ
	門司第二神鋼寮		五〇〇	
	門司俱樂部	第一師団一部?	二〇〇	
	小倉地區	計四〇六五		
	白銀養成所	第三十三師團	一〇九九	
	北方競馬場	第一一二部隊	一五〇〇	
	北方第三十部隊	カノケス中佐	三三八	
	城野養成所		三三〇	
	玉屋	第一二六部隊 第一三三部隊 スナブシ中佐	二四〇	
	久留米地區	計一〇〇		
	第一豫備士官學校	海兵第五師團第三 聯隊主力	上五〇	
	師団司令部	ウチノハ中佐	五五〇	
	大牟田地區	計一五〇		
	市内三池港務所	海兵第三師團第八 聯隊司令部(中隊カ)	二五〇	
	計三五〇			
	芦屋地區	計三五〇		
	芦屋飛行場		三五〇	
備考	一本表、外直天田川に各々小敷敷言備隊ラレモ進駐シアリ 二、福岡地区各場所所員ハ所管警備隊員者ノ報告、通報者ヲ監督者 ノ員込等ヨリ福岡以外地区ハ助役、報告ノ警備者等ノ報告ニシテ 三、北九州ハ逐次兵力増加シテ天ノ如シ			

2

警察無線電報

ト三ノ西之長豊中学校、豊田中学校、下校分
一後継電報。

0309

警察無線電報

一訂正

部長 課長

事務官

表

要處 安理 小三洋女校 連続電報 ① 定指 整理 15 数字 211

昭和二十年 11月 21日 発信

発信

時 分

警察無線電報 第一隊無線電報機

一十一月十七日未同警察無線電報機、第一隊無線電報機、
増上、増上、増上、増上、増上、増上、増上、増上、増上、増上、
調上、調上、調上、調上、調上、調上、調上、調上、調上、調上、
聯合無線電報機、十一月十七日、十一月十八日、十一月十九日、
西之長豊中学校、豊田中学校、下校分、
一後継電報。

1/11

0308

電信寫

P. 2. 0. 4

昭和二〇

平

福岡 十一月二十九日 三、五〇 發
本宿 二十九日 一八三〇 發

連

吉田外務大臣

馬瀬局長

第一二號

(第五海兵師團司令部撤退ノ件)

在野第一號ニ關シ

第五海兵師團福岡地區司令部「ロビンソン」代將ハ十一月二十五日
佐世休ニ歸還シ之ヲ以テ向司令部ハ福岡ヨリ撤退セララルコトトセ

(了)

電信寫

A. 1002

P. 2. 0. 4

通 番 號
六 四 八 八 四

符 號
平

昭和二十年十二月 四日 一四時三〇分 連

主 連

福岡 馬瀬局長

終 連 次 長

第九號

(在福岡米軍司令部所在ニ關スル件)

貴電第一二號ニ關シ

第五海兵師團福岡地區司令部撤退後福岡ニハ如何ナル司令部アリ
ヲ報告相成度



記帳簿

0311

0310

終戦業務部

福河 録



0314

聯合進駐軍連絡委員會 國報第三十號 十一月廿八日
外務省終戦連絡中支事務 約 委員長
情報 總務部長 殿 委員長

海兵第三聯隊ウオーンハム大佐ハ十一月廿六日佐古保経由ニテ米
本國ニ歸國

久留米地區指揮官スターリク中佐ハ久留米ヨリ都城ニ交代勤
務処豫定変更ニ現在待命中ナリ

A-1-0-0-2
海兵第三聯隊ハ十一月廿五日全員佐古保集結後都城並ニ
宮崎轉進スルヲミニテシカガ交代ハ第百三十一砲兵大隊ニシテ十一月
二十四日佐賀縣基山ヨリ久留米第一豫備士官學校ニ進駐ス
其ノ兵力左ノ如シ

大隊長兼久留米地區指揮官 キン 中佐

副官

ホルホルク中尉

大隊本部附

ジヨニン中尉

同

ミーラ中尉

並ニ之ガ麾下ニ屬スル陸兵隊六〇〇名

海兵隊所屬ニ屬兵アトシスコットニツキ中尉以下五〇名ハ十一月

二十日佐古保ニ集結ノ上都城ニ轉進ス

又前駐部隊(海兵第三聯隊ウオーンハム大佐)ト交代部隊(

第百三十一砲兵大隊キン中佐)ハ十一月二十四日進駐ス

其ノ兵力左ノ如シ

十一月廿六日現在久留米地區進駐軍兵力左ノ如シ

A/20.2

星野病院	西戸崎		第三工隊
大和生命	橋岡市五代田口前		第三師團
大谷機軸株式會社	博多駅通博多市立前		檢閱所
松下金屬株式會社	筑紫郡二日市町	十二月九日	兵器補給部隊

建築物名稱

場所

接收日期

接收部隊

一部
情報 總務部 長
聯合進駐軍連絡委員會回報第三十二號
十二月八日
福岡縣下聯合進駐軍兵力一覽表別紙通過(第一號)
決定 建物接收左如シ

終連總務部一課

終連
20.12.18
秘書處

周榮

20.12.17

0316

進駐目	場	所	部	隊	人員
	千代田ビル		第三師團司令部 ミツブライド代將		二〇〇
	津田 産業業 (甘菜港)		第九軍政部		二〇
	海軍ビル (旧九州海軍部)		第三師團特任隊		二〇〇
	教育會館 (放送局前)		第三師團通信隊		二〇〇
	西部軍司令部及第一高女		第三師團憲兵隊		三〇〇
	簡易保健局		第一三三病院 第三〇九綜合病院 第五研品研究所 第八三三リテ制御工部隊		一〇〇〇
	大名所 住友海上保険		第八三三リテ制御工部隊		一〇〇
	板付興重 炭		加曲辰砲隊		二五〇
	板付大成 炭		第一八七六工作大隊		七〇〇
	航空工		第一九〇二工作大隊		七〇〇
	東洋 空 炭		第一一二二工作大隊		六〇〇
	雑餉隈九 炭		第五八航空整備隊		一五〇
	雑餉隈九 炭		第一七七七工作大隊		一六〇
	大野村福岡精工		第三聯隊第一大隊		六〇〇
	大野村中央兵器		第九兵器大隊		五〇〇
	春日 原造 兵 徹		第五野戦大隊 第二七四通信隊 第六〇通信隊 第三六〇野戦隊		二五〇
	古賀 射 場		第八三七航空隊		一〇〇
	第一〇四一工場		第七二一野戦病院		
備考	九月末考一次進駐セルロヒンシン海軍代將人等セルロヒンシン 海軍隊ハ十月二十五日一考下ニリタルロヒンシン司令部 移駐ヲ最後トシテ佐世保ニ帰還セリ				

以上一二月一日現在

門司地区		計約一、〇五〇	人員
進駐日	場	部	隊
門司俱樂部	門司第二神鋼寮	海兵隊 第三十三師團 一部	一、〇五〇
小倉名地区			
計約五、〇〇〇	白銀養食成所	第三師團	一、九九
北方競馬場	北方第三十部隊	第一三三部隊	五〇〇
物野養食成所	造兵廠本館及俱樂部	第三六部隊	八三
玉屋		第三五部隊	三三〇
其後		第三十三師團隷下	三〇〇
久留米地区			
計約一、一〇〇	第一三師團士官生學校	第一三砲兵大隊	六〇
師團司令部	第三師團隷下		五〇
大牟田地区			
計約二、二五〇	海兵第二師團第八聯隊		三五〇
其他			
一〇、三六	若松市	第三師團司令部	六〇
一〇、三〇	直方市	M.P.	三五
一〇、中旬	田川市	M.P.	五〇
一一、二三	芦屋町	航空部隊	一〇〇

以上一月日現在

進駐場	進駐所	部	隊	人員
千代田ビル	津田 産業 (築港)	第三師団司令部 マクアライト代將		二〇〇
海軍ビル (旧九州海軍部)	津田 産業 (築港)	第九軍政部		一〇〇
教育會館 (放送局前)	第三師団通信隊			二〇〇
西部軍司令部及第一高女	第三師団憲兵隊			三〇〇
簡 易 保 險 局	第一二三病院 第三〇九 綜合病院 第五藥品研究所 第八三三マリヤ制御隊			一〇〇〇
大名町 住友海上保險	第八三三マリヤ制御隊			一〇〇
板付興 亜 寮	相國辰砲隊			三五〇
板付大 成 寮	第一八七六工作大隊			七〇〇
航空 工	第一九〇二工作大隊			七〇〇
東 洋 空 氣	第一一二工作大隊			六〇〇
雜 餉 九 兵 飛	第五八航空整備隊			一五〇〇
雜 餉 九 兵	第一七七七工作大隊			一六〇〇
大野村福岡精工	第三聯隊第一大隊			六〇〇
大野村中兵兵 器	第二〇九兵器大隊			五〇〇
春日 原 造 兵 工 廠	第五戰斗機隊 第三七四通信隊 第六〇二通信隊 第三六六戰隊			二五〇〇
古 賀 射 場	第八三七航空隊			一〇〇
第一〇四一工場	第七二一野戰病院			
備 考	九月末第一次進駐セルロイドシン海軍代將司令部セルロイド海軍隊ハ十月二十五日方亭三三三セルロイドシン司令部に移駐ヲ且取後トシテ佐古保ニ帰還セリ			

以上十二月一日現在

21.2.0.4

元玉 總教

昭和二〇 一一八 平 福岡 十二月十二日一三〇〇發 運一
本省 十二月一日發 〇着

為瀬局長

(步兵第三二師 函大卒田市進駐報告ノ件)

富地駐屯ノ第三二步兵師團ノ一部ハ最近大卒田ニ進駐ヲ開始シ同師團司令官モ之ヲ確認セリ之ニ依リ第三二師團ハ福岡縣全境ヲ管轄スルコトナレリ(了)



0323

21.2.0.4

昭和二〇

平 佐世保 十二月二十三日發
本省 二十三日發

河原華務局長

元玉 總教
第三五號(暫奈無電經由)

(駐屯軍交代ノ件)

第五師團(軍團司令部)ハ本月末日引揚師團シ長崎第一師團司令部カ當地へ移轉スル旨内報アリタリ

(了)



0324

陸軍總務部

佐世連第四分隊

昭和二十二年十一月二十九日

佐世連佐世係事務局長

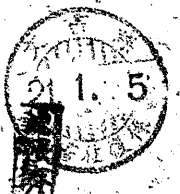
陸軍連路中央事務局總裁 殿

米海兵第二師團佐世係移駐ニ関スル件

一 米海兵第二師團カ長崎ヨリ当地ニ移駐ノ次第ハ既ニ電
 報ノ通りナリカ同師團ノ管轄區域ハ福岡大分ノ兩縣ヲ除キ
 タル九州各都及フヲ以テ管轄區域ニ有テ是
 縣ヲ除キタル九州各都ト政及ニ付右ニ御取相相成度
 (十一月十六日接到) 十日附外務省告示第五号ニ依リハ
 我連路庶務事務局ハ米國第五軍中五水陸兩用軍團

海軍

第二海兵師團ト同シキ區域ヲ管轄ス 但シ管下ノ他ノ陸軍
 連路事務権限ノ所管ニ属スル事ヲ除キトアル師團司令部
 カ当地ニ以上ノ事案上米海兵第二師團管轄區域内ニ於テ是
 等事務為ニ於テハ處理スヘキト止ラリ得サル所ナリ從テ
 庶務事務局長ハ該事務局ノ出先所トスル所トシテ(海兵)思
 見ニ右支隊了ニ於テハ之ヲ該隊所駐在地方官崎ニ移シ
 官崎縣ヲ管轄區域トスル所トシ一考示スルヘシ
 二 当地中ノ海兵連路隊ハ既ニ恒久的宿營施設ヲ開始シ居
 中ニ二十日間駐屯スヘト云言シ居ルモノナリ 内報ニ依リハ
 福岡第三海兵師團之何レ早晚協同シ後等九州ハ該隊第一
 海兵連路隊先シ当地中ノ中心トナリ 後等當該事務
 局ノ老練ニ付テハ特ニ御取相請フ(先般吉岡事務官出
 張ノ際)中ノ第三海兵師團カ九州ニ移留スル所トナリヤノ觀測ヲ述ヘ



置すべし其ノ後ノ情報及神ノ沙圖ノ当地ニ於ケル致度概シ
ヲ見ルニ第二沙圖ノ当地ヲ根據地トシテ長期滞在スルコト明
白ナルニ付右ノ如ク被テテ語フ

海軍

電信寫

外務省

昭和二一 三一 平 長崎支隊一月六日一三〇〇發 連一
 本省 七日一〇一〇着
 兒 玉 總 裁 若松事務局長
 (進駐軍移駐ニ關スル件)
 客年九月以來當地ニ駐屯セシ米第二海兵團ハ最近佐世保ニ移駐ス
 ルコトトナリ舊駐二十六日以降移駐ヲ開始中ナリシ處既ニ大部分
 ノ移駐ヲ終ヘ司令官「ハントン」少將ハ幕僚ト共ニ本六日佐世保
 ニ向ケ出發セリ
 右ト入替リニ速早ニ進駐セシ同師團第一〇聯隊ノ大部分當地ニ來
 駐スルコトトナリ既ニ移駐ヲ開始セルカ當該官「クライク」大佐
 ハ今明ヨリ來將スル意ナリ(了)
 臣布先 次官、政長、政一、總裁、次長、終戰各部長



電信寫

外務省

昭和二一 二〇六 平 佐世保 一月八日一三〇〇發 連一
 本省 八日一四二〇着
 兒 玉 總 裁 河原事務局長
 (第二師團司令部進駐ニ關スル件)
 七日第二師團司令部當地ニ進駐シ第五海軍團ト交替ヲ了セリ
 福岡、鹿屋事務局長、大分福岡ヲ除ク九州各縣知事ニ傳達セリ
 臣布先 次官、政長、政一、總裁、次長、各部長、秘書、第一、二、三



終戰事務部

終戰事務部第四號

昭和二十一年一月三十一日

終戰事務部佐世保事務局長

河原崎一郎

終戰事務部
21.2.5
秘書課

21.2.-5

A-1-0-0-2

松本

終戰事務部中央事務局長總裁

見 玉 藤 次 殿

進駐聯合軍兵力配置ニ関スル件

本件ニ関シ新軍政部長「フイヒ」少佐、本官ニ対シ説明
左ノ通リ報告申進ス

一、一月二十日以來軍政部長進駐軍日ヲ獨立ニテ直接京都

終戰事務部佐世保事務局長

第一軍團ニ帰属スルコトナリ後ヲテ九州方面ニ於テ六軍第
方面ノ徵發(調達物資及勞務ヲ含ム)ハ第二師團司令
部之ヲ統轄シ軍政方面ハ左ノ如キ第九十五「ガル」之ヲ
統轄ス

二、(1) 第二師團司令部所屬各隊、配置及管轄區域左ノ
通リ

司令部所屬地

第二隊 (宮崎縣・大分縣) 一宮崎

第八隊 (熊本縣・鹿兒島縣) 一熊本

第十隊 (長崎縣) 一長崎

第六隊 (福井縣・山口縣) 一福岡

(2) 軍政部第九十五「ガル」ノ組織左ノ通リ

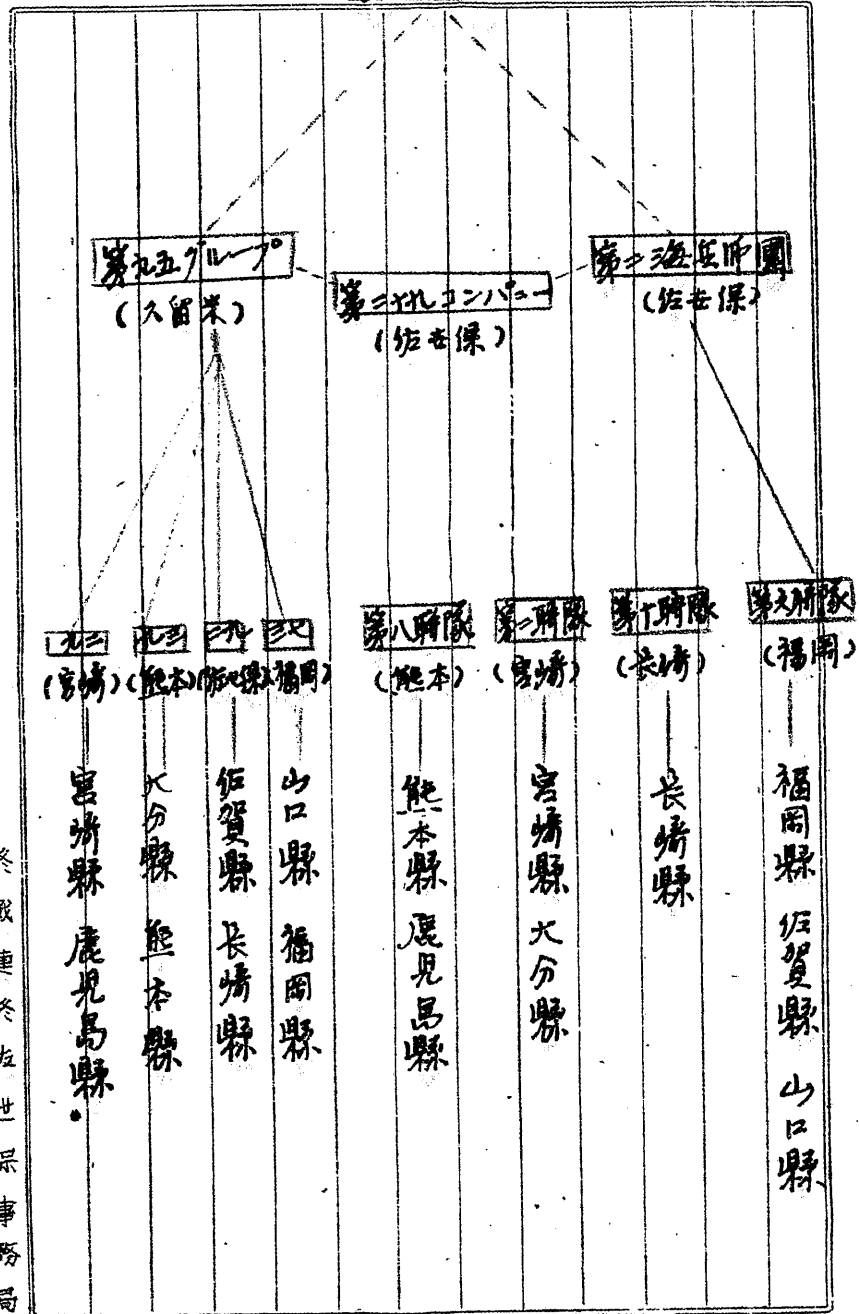
本部所屬地

第九十五「コバニ」 (鹿兒島縣・宮崎縣) 一宮崎

第九十三「コバニ」 (熊本縣・大分縣) 一熊本

終戰事務部佐世保事務局長

第一軍團



終戰連終佐世保事務局

第二十九「コンバト」(長崎縣・佐賀縣)―佐世保
 第三十七「コンバト」(福岡縣・山口縣)―福岡
 第二十九「コンバト」ハ佐世保ニ在リ右ハ長崎・佐賀・軍政ヲ統轄
 スル外第二師團司令部ト第九十五「グループ」ト連絡ニ當ルコ
 トナリ居レリ但シ長崎・佐賀・西縣・軍政事項ハ西縣廳所主
 地ニ於テ第二十九「コンバト」ノ代表者ニ依リ直接處理ス
 尚考考ノ為右ノ圖示セハ存專 左ノ通り

終戰連終佐世保事務局

本信寫送附先

福岡、鹿屋、各事務局

山口、福岡、大分、宮崎、鹿児島、熊本、佐賀、長崎
各縣知事

終戰連、終佐世保事務局

電信寫

A-1-0-0-2

4
2
昭和二一 五〇三一三 平 鹿屋 二月二日〇九三〇發 道經
本省 二月一四三〇着
山崎事務局長

第二五號

(進駐重政政務部移動ニ關スル件)

米第二四師團司令部ノ岡山移駐ニ伴ヒ當地ニアル第九四重政「グ
ループ」モ近ク岡山ニ移リ目下松江ニ居ル第七六重政「カンパニ
ー」當地ニ來ル趣ニシテ前者ハ中國四縣及四國ヲ管轄シ後者ハ廣
島、島根ヲ管轄スル由ニ付岡山ニ事務局設置ノ要アリト認メラル

(了)

配布先 人、文、會、電、總裁、次長、總、一、四部長、秘、
總ノ一、二、一、二、三、四、ノ、一、二、三、

外務省

記帳済

電信寫

P-1-2-0-4

昭和二一 五〇三一五 平

福岡 二月四日一〇〇〇發 連
本省 四月一〇二五着

川崎事務局長代理

吉田總裁
第三〇號

(福岡山口地區進駐軍交替ノ件)

從來福岡山口進駐ノ歩兵第三二師ハ本月一日附ヲ以テ海兵第二師
第六聯隊ト交替ナリ、尙第五戰團隊ハ從來通り進駐シ居レリ、
配布先 文、電、總裁、次長、各部課長

尾

記帳済

外務省

P. 20. 4

昭和二十一 平 一八三八 久留米 五月三日一七二分發 絡總 殿

吉田 總裁

本省 四日一八二分着

根道事務局長

第一七號 (至急)

(第二四歩兵師團ノ九州地區進駐ニ關スル件)

第二四歩兵師團ノ九州地區進駐ニ關シ本三日午后當地第九五軍政
團司會ニテ會議アリ未ダ續行中ナル處現在迄ノ決定事項トシテ副
官ノ本官ニ語リタルモノ左ノ通り

(イ) 司令部ヲ小倉ニ置ク

(ロ) 進駐軍各部隊所在地ハ未定ナルモ佐世保ハ少カルベシ

(ハ) 第九五軍政團ノ移轉說 (鈴木發總裁宛第一三三號参照) ニ關
シテハ未定ニテ久留米ニ存置シタキ意向ナリ

細決定次第報告ス (了)
配布先 次官、文、會、電、總裁、次長、總務部部長

外務省